

東久留米市立大門中学校 第2学年

| 教科 | 児童・生徒の学習状況分析 更に工夫したい点 | 具体的な授業改善策 | 評価・検証方法、目標値 評価(◎、○、●) |
|------|---|---|--|
| 国語 | 思考の仕方、表現の仕方、その基礎的な知識等に不十分な点が見られる生徒が多い。 | 他者との対話や演習的な教材の取り組みをより工夫して、「こうやればできる。」という感覚を高めて、思考法や表現法などの取得に努める。 | ○定期考査において思考や表現の単元についてのB評価を75%以上にする。 |
| 社会 | 都道府県の位置を正確に理解している生徒と理解できていない生徒が見られる。 | 地図帳を活用して、都道府県の位置を調べさせる活動を多く取り入れたり「都道府県名を覚えよう」を夏休みの課題にして提出させたりする。 | ○「都道府県テスト」を2学期当初と学期末の2回実施し、80%以上の正答率を学年全体の75%以上にする。 |
| 数学 | 四則演算、方程式の計算など、基本的な技能はあるものの、文章から数量関係を読み取り、立式することや式の意味を理解することが苦手な生徒が多い。 | 文章問題で数量関係をイメージしやすくするため、図や表などを用いて解くことの指導を徹底する。 授業では数量関係を確認することに力を入れる。 | ●定期考査における「思考・判断・表現」についての問題の正答率を70%以上にする。 |
| 理科 | 前向きに授業に取り組んでいるが、内容の理解が不十分な生徒がいる。 | 学習のまとまりごとに小テストを行い、内容の理解度を把握する。 | ○小テストを単元ごとに行い、正答率80%以上の生徒を学年全体の80%以上にする。 |
| 音楽 | 鑑賞で、文章の記述が苦手な生徒がいる。音楽的センスの良い生徒はもっと進んで欲しいと感じ、一方でゆっくり進んで欲しいと感じる生徒もいる。 | 感想文の良いものを、見本として読み上げる。理解すべき学習内容、記述の到達点を明確に指示する。 | ◎感想文の評価が80%以上、到達点のB以上になるよう指導する。C評価の生徒には、どのように改善すればB評価になるかをアドバイスする。 |
| 美術 | 見る力、感じる力、それを表現する力を更に伸ばす必要がある。 | 西洋画及び日本画の鑑賞レポートを通して見る目を養い、パネル時計を通して調和を学ばせ、モザイク画で構成を学ばせる。 | ●作品を提出させる。その評価が上がる生徒を10%以上上げる。 |
| 保健体育 | 基本的な授業に対する意欲は十分であり、個々の取り組みも活発に行う。 手本の動きや友達の様子を見て課題を克服できるようにする。 | 運動のポイントを分かりやすく提示し、自ら考え、仲間と教え合い、ポイントを指示・共有しながら習得できる授業づくりを目指す。 良いプレイや工夫した運動を紹介し、良かった点やポイントとなる点を共有する。 | ○授業評価では「ポイントを捉える」生徒が80%以上になる。 ●学習カードに仲間の良かった動きを記載する欄の記入率90%以上とする。 |
| 技術 | 全体的には、授業に対して興味をもち、積極的に取り組む生徒が多い。 | 作品完成までの努力や工夫した点などの発表をさせることで発信力を高め、周りからの評価を受けることで改善策を考えさせる。そのためのタブレット端末などのICT機器の効果的な活用を進める。 | ○主体的に学ぶ内容に重点を置き、ワークシート・発表による点検で、B評価が60%以上になるようにする。 |
| 家庭 | 感染症対策により、食に対する実習が困難な状態にあるため、安全に取り組める方法を模索する。 | 自分自身の食生活を振り返り、食の表示やバランスの良い食生活について考え、その問題点や改善点を考慮し改善できることを目指す。 | ○主体的に学ぶ内容に重点を置き、平面計画を立てる。B評価が60%以上になることを目指す。 |

東久留米市立大門中学校 第2学年

| 教科 | 児童・生徒の学習状況分析 更に工夫したい点 | 具体的な授業改善策 | 評価・検証方法、目標値 評価（◎、○、●） |
|-------------------|---|---|---|
| 外国語 | 授業内で自分の取り組みや目標に対する到達度について振り返る場面を設定しているが、そこで見つけた自分の課題を解決するために粘り強く取り組もうとしている生徒は少ない。 | スモールステップできる目標や学習方法を提案し、粘り強く課題解決できるよう積極的に支援する。 | ○学期ごとにアンケートを実施し、授業後に復習を行う生徒が90%以上になるようにする。 |
| 道徳 特別の 教科 | 発問に対して真剣に考えなかったり、考えたことがあっても表現しようとしなかったりする生徒がいる。 | 他人事にせず、主体的に自分の考えを深められるような授業の展開を考える。特に、導入で生徒の興味・関心をひくことができるようにする。 | ◎友達の意見を聞き、自分の考えを深めることができたか。（授業観察、ワークシートからの見取り） |
| 時間 総合的な 学習の | 上級学校調べや職場体験の活動を通して、生徒自身が自己理解を深める機会を有意義に活用している | 上級学校調べでは3年生に進級したときのイメージをもたせ、自らの進路選択をより具体的に考えさせる。職場体験では、働くことや自分の適性、興味について理解を深めさせる。東京校外学習においては役割を分担して、当日の班行動及び調べ学習にしっかりと取り組ませる。 | ○上級学校調べではプレゼンとワークシートの両方を、生徒の投票による評価を行う。東京校外学習において、全員が調べた内容を発表原稿・発表用紙として作成・発表・掲示する。また、職場体験についても振り返りやグループでの発表を行う。 |